

～和と洋のコラボレーション～ システィーナ歌舞伎

# 「スサノオ susanoo」

2010年11月13日(土)・14日(日)

## 企画の意図

大塚国際美術館(館長:大塚明彦、所在地:徳島県鳴門市)では、昨年好評を博しましたヴァチカンのシスティーナ礼拝堂を原寸大に立体再現した「システィーナ・ホール」を舞台とする歌舞伎を、11月13・14日の両日、演目もあらたに上演いたします。

今般、初演される「スサノオ susanoo」も、松竹株式会社の製作により、近松門左衛門「日本振袖始」を、荘厳な雰囲気を持つ「システィーナ・ホール」に合わせて水口一夫の脚本・演出、藤間勘十郎の振付により創作した新作歌舞伎です。日本伝統の歌舞伎を、500年前の西洋アートの空間で上演するという異空間での歌舞伎公演は、昨年に引き続き画期的な試みです。岩長姫は上村吉弥が、<sup>すさのみこと</sup>素戔鳴尊は坂東新車、稲田姫は中村吉太郎がそれぞれ演じます。

「動く錦絵」ともいわれる歌舞伎の「和」と巨匠・ミケランジェロが躍動的な肉体美で聖書の世界を描き上げたシスティーナ礼拝堂の「洋」を効果的に扱う構成です。東洋と西洋の文化の調和と競演、また日本の神話と西洋の神との競合が繰り広げられることでしょう。

このたびの公演では、歌舞伎文化を徳島で根付かせようと活動する「NPO 法人 とくしま傾く会」(理事長:河野稔治、会員250人)に全面的な協力を得るとともに、国指定重要無形文化財である「阿波人形浄瑠璃」や徳島室内楽団の弦楽四重奏など、地元からの共演が実現しました。さらには国指定重要無形民俗文化財である島根県西部の伝統芸能「<sup>いわみかぐら</sup>石見神楽」<sup>あざさしやちゅう</sup>小笹社中が出演します。間口約19m×奥行約40m×高さ約15mという「システィーナ・ホール」の荘厳な雰囲気を失わず、舞台と観客の一体感をよぶ工夫が凝らされた演出は、歌舞伎ファンはもとより、歌舞伎を初めて観劇する方にも贅沢なひとときを過ごしていただけるものと考えています。

## 日時

11月13日(土) 【午前の部】11:00～12:45 【午後の部】15:00～16:45 (30分前開場)

11月14日(日) 【午前の部】11:00～12:45 【午後の部】15:00～16:45 (30分前開場)

## 演 目

### 近松門左衛門「日本振袖始」より「スサノオ susanoo」

岩長姫：上村 吉 弥

素戔鳴尊：坂東 薪 車

稲田 姫：中村 吉太郎

【会 場】B3F システィーナ・ホール

【あらすじ】

木花開那<sup>このはな さくやひめ</sup>姫は、その美貌を見込まれ入内を望まれるが、姉の岩長<sup>いわながひめ</sup>姫はそれを嫉妬し、悪鬼に変身、素戔<sup>すさののみこと</sup>鳴尊の持つ「十柄<sup>とつか</sup>の宝剣」を奪って逃げる。

尊はその悪鬼が実は出雲<sup>いずも</sup>の国簸<sup>ひ</sup>の川の川上に棲む八岐<sup>やまた</sup>の大蛇<sup>おろち</sup>であることを知る。尊は宝剣を奪い返すべく旅に出る。

尊は簸<sup>いなだひめ</sup>の川の川岸で、高熱に苦しむ稲田<sup>いなだひめ</sup>姫を、両袖の脇を開け、熱を下げてやる。これが振袖の始まりという。その稲田<sup>いなだひめ</sup>姫が、大蛇の生贄とされることを聞き、姫を助けることを約束する。尊は八つの瓶に毒酒を入れて、大蛇をおびき出し、酒に酔い潰れさせた隙に刺し殺し、めでたく宝剣を奪い返す。

## 入場料

プラチナ指定席（花道・舞台まわり）10,000 円 / S 指定席 8,000 円 / A 指定席 6,500 円  
（美術館入館料・観劇料含む） 1 公演 400 席

## 関連イベントについて

### とくしま傾<sup>かぶ</sup>く会の歌舞伎ナビ 歌舞伎の楽しみ方～システィーナ歌舞伎への期待～

日時：10月17日（日）13:30～15:00

会場：徳島新聞放送会館 1階会議室

講師：たのしむ歌舞伎ナビゲーター <sup>かわのとしはる</sup>河野稔治

定員：200名（事前申込制・先着順）

締切：9月30日（木）

お問い合わせ：NPO法人とくしま傾く会（TEL：080-3922-2565）

## 出演者を囲む夕べ

日時：11月13日（土）18:00から

会場：大塚国際美術館 B2F カフェ・ド・ジヴェルニー

会費：3,000 円

定員：150名（事前申込制・先着順）

締切：10月31日（土）

お問い合わせ：大塚国際美術館（TEL：088-687-3737）

## ご参考

### プロフィール

かみむらきちや  
【上村吉弥 六代目 屋号・美吉屋】

和歌山県出身

1973年 8月 片岡我當に入門

1987年 11月 名題披露

1993年 11月 京都・南座で六代目吉弥襲名

品のある面差しと確かな実力で上方歌舞伎になくてはならない女方のひとり。門閥外の出身ながら、天性の美貌と精進で由緒ある名跡を得た。

恒例となっている南座の歌舞伎鑑賞教室には第1回から連続出演し、今年18回目を終えた。6月には師・片岡我當一門の鑑賞教室に参加し、常に重要な役どころを的確に演じている。

若女房から老け役まで多彩に演じ分ける手腕を買われ、近年活躍の場をさらに広げ、2007年3月には、パリ・オペラ座公演に参加。新歌舞伎十八番の内「紅葉狩」の局田毎で見せた演技は高い評価を受けた。また、同年11月、国立劇場「通し狂言 摂州合邦辻」で見せたおとくの卓越した演技は記憶に新しい(国立劇場奨励賞)。舞踊も巧みである。



なかむらかずたろう  
【中村壱太郎 初代 屋号・成駒屋】

東京都出身

中村翫雀の長男。祖父は坂田藤十郎。母は吾妻徳彌。

1991年 11月 京都・南座「廓文章」の手代壱太郎で本名で初お目見得。

1995年 1月 大阪・中座「こもちやまんば 姫山姥」の一子公時で  
初代中村壱太郎を名のり初舞台。

まさにいま、蕾の花がほころびかけたかのような初々しさが魅力。2009年の永楽館大歌舞伎では、「藤娘」で愛らしい藤の精を踊り、立役では「白浪五人男」の赤星十三郎を美しく演じた。祖父・坂田藤十郎の相手役を勤めた2009年の「封印切」の梅川や、2010年3月、役柄と同じ19歳で挑んだ「曽根崎心中」のお初も印象深い。せりふに研究の跡があり、今後、上方歌舞伎を継承していく上で大きなエポックとなるに違いない。



ぼんどうしんしゃ  
【坂東薪車 四代目 屋号・音羽屋】

千葉県出身

1998年 9月 大阪松竹座で竹志郎を名乗って初舞台

2005年 4月 大阪松竹座で五代目坂東竹三郎の芸養子となり四代目薪車襲名

上方歌舞伎の若き立役のホープ。2007年7月、大阪松竹座では急な代役(義経千本桜・渡海屋の源九郎判官義経)にもかかわらず、堂々とした演技で高い評価を得た。熱心な役づくりには目を見張らされる。

関東の出身だが、上方の雰囲気や体得するため普段から大阪弁を使うよう心掛け、大阪の生活感を身につける努力を怠らない。2008年11月、藤山直美の相手役で松竹新喜劇の名作「銀のかんざし」に挑み、上方和事の二枚目に可能性を感じさせた。



## 昨年のシスティーナ歌舞伎「切支丹寺異聞 伽羅紗」



### 「システィーナ礼拝堂」について

#### ミケランジェロ (1475-1564)

天井画：「天地創造」ほか 1508-12年 フレスコ/3255×670 cm

壁画：「最後の審判」 1536-41年 フレスコ/1463×1338 cm

システィーナ礼拝堂は教皇シクストゥス4世(在位 1471-84)の命によって、1473年頃ヴァチカン宮殿内に建造が開始されたことからその名があります。天井までの高さが21mあり、幅13m、長さ40mの、礼拝堂としてはたいへん大きなものです。

時の教皇ユリウス2世(在位 1503-13)は彫刻家として、建築家として、詩人として、さらに画家として優れた才能を発揮したミケランジェロ(1475-1564)に天井画を描くように依頼しました。彼は、1508年からわずか4年間で、旧約聖書『創世記』に基づき、天地創造から人類の誕生、そして人類の墮落と刑罰という神と人類との物語など、約1000平方メートルの天井に300人にも及ぶ人間像を描き上げました。

天井画完成からおよそ四半世紀後、ミケランジェロは再び同じ礼拝堂の正面の壁画に「最後の審判」(『新約聖書』)を描くことになります。「最後の審判」とはキリスト教の考える世界の終末です。キリストが再び現れ、天使が死者を復活させ、人類は善人と悪人に分けられます。そして善人は天国へと救済され、悪人は地獄へ堕ちるとされています。伝統的な審判図が位階的で安定した構図をもつのに対し、ミケランジェロのそれは極めてユニークなものとなっています。ここでは、天使さえもが興奮し、驚き、動転しているのです。静かに世界の終末を迎えるのではなく、神の裁きの前で動乱し、反逆し、絶叫する人類が描かれています。

## 大塚国際美術館とは

渦潮を臨み緑豊かな鳴門公園に位置する「大塚国際美術館」。古代壁画から世界 25 ヶ国 190 余の美術館が所蔵する現代絵画まで、1,000 点を超える世界の名画を特殊技術によって、原寸大の陶板で忠実に複製しています。約 4 km に及ぶ鑑賞ルートには、古代遺跡や礼拝堂を現地の空間そのままに再現した立体展示のほか、レオナルド・ダ・ヴィンチ「最後の晩餐」、ゴッホ「ヒマワリ」、ピカソ「ゲルニカ」など、美術書などで一度は見たことがあるような名画を美術史の流れに沿って展示しています。

なかでも、ミケランジェロが描いた天井画と正面祭壇壁画「最後の審判」とともに立体再現した「システーナ・ホール」の迫力は必見です。

### 大塚国際美術館

住所：徳島県鳴門市鳴門町 鳴門公園内

TEL：088-687-3737

FAX：088-687-1117

<http://www.o-museum.or.jp/>

開館時間：9 時 30 分から 17 時（入館は 16 時まで）

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）

正月明けに連続休館あり / 7・8 月無休

入館料：小・中・高生 520 円

大 学 生 2,100 円

一 般 3,150 円

\* 20 名以上の団体は 10% 割引

#### アクセス

- ・鳴門北 IC から車で約 3 分  
専用駐車場より無料シャトルバス運行
- ・高速バスにて（高速鳴門まで）  
JR 大阪駅より約 2 時間 10 分 / JR 新神戸より約 1 時間 35 分
- ・路線バス「鳴門公園行」にて「大塚国際美術館前」下車  
JR 徳島駅より約 55 分、JR 鳴門駅より約 15 分、  
「高速鳴門バス停前」「小鳴門橋」バス停より約 15 分、  
「徳島空港」バス停より約 30 分



環境展示：「システーナ・ホール」

#### 《本件に関するお問い合わせ先》

大塚国際美術館 企画・広報部 坂本明子

TEL：088-687-3737 FAX：088-687-1117

e-mail：museum@otsukakj.co.jp